

キリスト教概説

Kin

1. 目的

男声合唱のための「どちなきりしたん」に取り組むにあたり、曲のテキスト理解の前提となるキリスト教の一般的な知識を整理することが本レジュメの目的である。

2. 方法

- (1)単に旧・新約聖書の内容を要約するのではなく、理解のために一定の観点から旧・新約を横断的に整理・比較して特徴を浮き彫りにしている。そのため数ある文書を網羅的に取り上げることは諦めている。これは「大部の書物の内容につき、興味を持てる形で大掴みに理解する」という目的から。また、キリスト教の説明に止まらず、宗教における神概念等を哲学的に整理することも試みた。一宗教の理解にとどまらず、哲学の枠組みをくぐらせることで、普遍性のある形で旧・新約聖書の思想的価値もある程度明らかにできると思われたからである。
- (2)表を多用し、構造化して示すことに腐心した。言葉による説明を極力省くためである。表中の聖書の引用には、Wikisource:聖書の口語訳旧約聖書（日本聖書協会翻訳、1955年）、口語訳新約聖書（日本聖書協会翻訳、1954年）を使用させて頂いた。

3. おことわり

- (1)参考文献は末尾に掲げた。6～9の構成や引用箇所の特定を考えるに際しては、参考文献から得たものに多くよっている。
- (2)『基督に倣いて』や『サカラメンタ提要』の分析への架橋の為には、教父哲学、中世哲学、ドイツ神秘主義にも触れなければならないが、レジュメ発表時間との関係で、クザーヌスの思想以外は残念ながらほぼ割愛した。しかし、(代替という訳ではないが)西田哲学は教父哲学やドイツ神秘主義にも相当の目配りをしている(例えば、『善の研究』では、随所にアウグスティヌス、エックハルト、クザーヌス、ベーメといった思想家を引用)。

4. キリスト教とは

内 容	
Goog 辞書	仏教・イスラム教と並ぶ世界三大宗教の一。イエスをキリストすなわち救世主と信じる宗教。神の国の福音を説き、人類の罪を救済するために自ら十字架につき、復活したイエス＝キリストを信仰の中心とする。(以下略)
簡易東西哲学思想辞典	ローマ帝国の初期にユダヤから出たイエスとその教えに基づき、かれをメシア、キリストすなわち神の子として信じたその弟子たちの教会的団体から成り立った宗教。(以下略)

5. 言語

	原 典	翻 訳
旧約	ヘブライ語(「ダニエル書」、「エズラ記」、「エレミヤ書」等に部分的にアラム語)	・セプトウアギンタ(ギリシャ語) ・ラテン語標準訳ウルガタ(5世紀ヒエロニムス)
新約	ギリシャ語	ラテン語標準訳ウルガタ

6. 旧約聖書の構造と内容

	構成 (ヘブライ原典)	小括り	書物	内容	備考		
旧約聖書	律法	モーセ五書	創世記	天地万物と人間、イスラエル民族の起源	(※)ヤコブの子レビを祖とするイスラエルの部族(氏族)の一つ		
			出エジプト記	エジプト脱出、シナイ山の契約			
			レビ記	レビ族(※)に託された宗教的、民事的法規			
			民数記	荒野滞在時代			
			申命記	エジプト脱出と荒野時代の意味、ヨシュアの任命、モーセの死			
	預言者	前預言者		ヨシュア記	モーセの後継者ヨシュアがイスラエル12支族を率い、カナンを占領し、12の領地に分割	古代イスラエルの歴史叙述	
				士師記(ししき)	カナン定着以後の信仰的離反、民の苦難、神が救済者として遣わした士師の話		
				サムエル記上下	指導者サムエルに油注がれてサウルが王となる。サウル、ダビデによる王朝形成		
				列王記上下	王朝の終わるエルサレム没落まで		
		後預言者	三大預言者	イザヤ書	第一イザヤ(1-3章まで)	預言者イザヤによる民の信仰的離反や不正に対する弾劾、これへの民の頑迷等	前8世紀後半
					第二イザヤ(40章以下)	神義論の深化	第二イザヤ: 前6世紀前半(捕囚以降)
					第三イザヤ(56章以下)	53章の「苦難の僕の歌」は、民の苦難は贖罪の苦悩であるとする思想	第三イザヤ: 前6世紀後半
			エレミヤ書	エレミヤの神との葛藤、罪と赦しの理解の深化	前7世紀後半以降		
			エゼキエル書	ユダ王国末期からバビロン捕囚期前半のユダとエルサレムに対する審判の預言	前6世紀前半		
			小預言者	12の書物(ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼバニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書)	他の預言者たちの説教を伝える短い文書		
	(書物の順序は原典と変更している) 諸書	歌集		詩編	神への賛美の詩・祈りの文言 賛美・感謝・嘆きの3種類に分類	雅歌 ニュッサのグレゴリウスは、象徴的に神への愛を示したものと解釈	
				雅歌	男女の愛を歌い、讃えたもの。		
				哀歌	エルサレムの滅亡を嘆いたもの		
		知恵文書	前期	箴言	神の前での正しい生き方を教える知恵の言葉	詩編 37,73,119等は知恵の詩編	
			後期	ヨブ記	預言者とは別の神義論。応報倫理の破綻の疑問を率直に問う		
		歴史記述		コーヘレス書	悪人の行いに対する報いを受ける義人などを指摘し、虚しさを説く		
ルツ記				異邦人ルツがイスラエル人の慣習、律法に従いイスラエルの子孫存続(ルツの息子オベデはダビデの祖父にあたる)をなしたとの話			
歴代誌(上下)				古代ヘブライ史。上巻はアダムからダビデに至る系譜とダビデ王朝の物語。下巻はソロモン王朝から南ユダ王国の滅亡、捕囚まで			
エズラ記				バビロン捕囚後の時代を伝える。バビロンからの帰還、ソロモン神殿の再建	元来一書とされる		
ネヘミヤ記				ペルシャ王の后となったエステルの機転によってイスラエルの民が救われた話			
黙示文学			ダニエル書	終末を巡る黙示			

7. 新約聖書の構造と内容

	構成	小括り	書名	備考
新約聖書	福音書 (イエスの言行録)	共観福音書	マタイ伝	
			マルコ伝	最も古い。65年頃
			ルカ伝	
		第4福音書	ヨハネ伝	90年代後半
	歴史書	ルカによる初代教会史	使徒言行録	ルカ伝と著者同じ。80年～90年頃
	書簡	パウロ書簡	ローマの信徒への手紙	パウロ本人によるもの
			コリントの信徒への手紙Ⅰ・Ⅱ	
			ガラテヤの信徒への手紙	
			ピリピの信徒への手紙	
			テサロニケの信徒への手紙Ⅰ	
			ピレモンへの手紙	
		第2パウロ書簡群	エペソの信徒への手紙	パウロの弟子たちによるもの
			コロサイの信徒への手紙	
			テサロニケの信徒への手紙Ⅱ	
			テモテへの手紙Ⅰ・Ⅱ	
			テトスへの手紙	
		公同書簡	ヘブライ人への手紙	1世紀末。ペテロ、ヤコブら使徒による 真正のものとは考えられていない
ヤコブの手紙				
ペテロの手紙Ⅰ・Ⅱ				
ヨハネの手紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
ユダの手紙				
黙示文学		ヨハネ黙示録	ヨハネ伝とは著者は別。 千年王国論、最後の審判	

8. 旧・新約を通じた理解をするための比較

	旧・新	テキスト箇所	備考
愛敵の思想	旧約	【レビ記】 19:17 あなたは心に兄弟を憎んではならない。あなたの隣人をねんごろにいさめて、彼のゆえに罪を身に負ってはならない。19:18 あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みをいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない。わたしは主である。	
		【イザヤ書】(第2イザヤ) 50:6 わたしを打つ者に、わたしの背をまかせ、わたしのひげを抜く者に、わたしのほおをまかせ、恥とつばきとを避けるために、顔をかくさなかった。50:7 しかし主なる神はわたしを助けられる。それゆえ、わたしは恥じることがなかった。それゆえ、わたしは顔を火打石のようにした。わたしは決してはずかしめられないことを知る。50:8 わたしを義とする者が近くおられる。だれがわたしと争うだろうか、われわれは共に立とう。わたしのあだはだれか、わたしの所へ近くこさせよ。50:9 見よ、主なる神はわたしを助けられる。だれがわたしを罪に定めるだろうか。見よ、彼らは皆衣のようにふるび、しみのために食いつくされる。	
		【箴言】 16:7 人の道が主を喜ばせる時、主はその人の敵をもその人と和らげられる。25:21 もしあなたのあだか飢えているならば、パンを与えて食べさせ、もしかわいているならば水を与えて飲ませよ。	
	新約	【マタイ伝】 5:38『目には目を、歯には歯を』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。5:39 しかし、わたしはあなたがたに言う。悪人に手向かうな。もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい。5:43『隣り人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。5:44 しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。5:45 こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。5:46 あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるうか。そのようなことは取税人でもするではないか。5:48 それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。	アガペーの思想

	旧・新	テキスト箇所	備考
贖罪思想	旧約	動物贖罪 【レビ記】 4:2 「イスラエルの人々に言いなさい、『もし人があやまって罪を犯し、主のいましめにそむいて、してはならないことの一つをした時は次のようにしなければならない。4:3 すなわち、油注がれた祭司が罪を犯して、とがを民に及ぼすならば、彼はその犯した罪のために雄の全き子牛を罪祭として主にささげなければならない。』	
		(可能的)人間による贖罪 【出エジプト記】 32:30 あくる日、モーセは民に言った、「あなたがたは大いなる罪を犯した。それで今、わたしは主のもとに上って行く。あなたがたの罪を償うことが、できるかも知れない」。32:32 今もしあなたが、彼らの罪をゆるされますならば―。しかし、もしかなわなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください。』	執り成しの祈り
		【エレミヤ書】 10:23 主よ、わたしは知っています、人の道は自身によるのではなく、歩む人が、その歩みを自分で決めることのできないことを。10:24 主よ、わたしを懲らしてください。正しい道にしたがって、怒らずに懲らしてください。さもないと、わたしは無に帰してしまうでしょう。	
	代理贖罪 人間による 【イザヤ書】(第2イザヤ・苦難の僕の詩) 53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲しめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。53:12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。		
新約	神の独り子による代理贖罪 【コリントの信徒への手紙Ⅰ】 15:3 わたしが最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであつた。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、15:4 そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえつたこと、15:5 ケバに現れ、次に、十二人に現れたことである。15:6 そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。	アガペーの思想の行き着く先	

	旧・新	テキスト箇所	備考
終末思想	旧約	<p>【ダニエル書】</p> <p>12:1 その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ちあがります。また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます。12:2 また地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう。12:3 賢い者は、大空の輝さのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう。</p>	
	新約	<p>【マルコ伝】</p> <p>13:4「わたしたちにお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。またそんなことがことごとく成就するような場合には、どんな前兆がありますか」。13:5 そこで、イエスは話しはじめられた、「人に惑わされないように気をつけなさい。13:6 多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がそれだと言って、多くの人を惑わすであろう。13:7 また、戦争と戦争のうわさを聞くときにも、あわてるな。それは起らねばならないが、まだ終りではない。13:8 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに地震があり、またききんが起るであろう。これらは産みの苦しみの初めである。13:9 あなたがたは自分で気をつけていなさい。あなたがたは、わたしのために、衆議所に引きわたされ、会堂で打たれ、長官たちや王たちの前に立たされ、彼らに対してあかしをさせられるであろう。13:11 そして、人々があなたがたを連れて行って引きわたすとき、何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である。13:12 また兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、子は両親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。13:13 また、あなたがたはわたしの名のゆえに、すべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。13:24 その日には、この患難の後、日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、13:25 星は空から落ち、天体は揺り動かされるであろう。13:26 そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。13:30 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。13:31 天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。13:32 その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。</p>	
		<p>【ヨハネ黙示録】</p> <p>20:1 またわたしが見ていると、ひとりの御使が、底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から降りてきた。20:2 彼は、悪魔でありサタンである龍、すなわち、かの年を経たへびを捕えて千年の間つなぎおき、20:3 そして、底知れぬ所に投げ込み、入口を閉じてその上に封印し、千年の期間が終るまで、諸国民を惑わすことがないようにしておいた。その後、しばらくの間だけ解放されることになっていた。20:4 また見ていると、かず多くの座があり、その上に人々がすわっていた。そして、彼らにさばきの権が与えられていた。また、イエスのあかしをし神の言を伝えたために首を切られた人々の霊がそこにおり、また、獣をもその像をも拝まず、その刻印を額や手に受けることをしなかった人々がいた。彼らは生きかえって、キリストと共に千年の間、支配した。20:5(それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかつた。)これが第一の復活である。20:7 千年の期間が終ると、サタンはその獄から解放される。20:9 彼らは地上の広い所の上ってきて、聖徒たちの陣営と愛されていた都とを包囲した。すると、天から火が下ってきて、彼らを焼き尽した。20:12 また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。20:13 海はその中にいる死人を出し、死も黄泉もその中にいる死人を出し、そして、おのおのそのしわざに応じて、さばきを受けた。20:14 それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。</p>	ダニエル書 12章、 マルコ伝 13章を展開
	<p>【ペテロの手紙Ⅱ】</p> <p>3:3 まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し、3:4「主の来臨の約束はどうなったのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない」と言うであろう。3:7 しかし、今の天と地とは、同じ御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである。3:8 愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあつては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。3:10 しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。</p>	※千年大國論と異なる	

9. 神と人間との関係

概念	西田幾多郎「場所的論理と宗教的世界観」	備考
神	<p>相対的なものが、絶対的なものに対するということが、死である。我々の自己が神に対する時に、死である。イザヤが神を見た時、「禍なるかな、われ滅びなん、我は穢れたる唇のものにて、穢れたる民の真中に住むものなるに、我眼は万軍の主なる王を見ればなり」と言っている(※1)。相対的なものが絶対者に対するとは言えない。また相対に対する絶対は絶対ではない。それ自身また相対者である。相対が絶対に対するという時、そこに死がなければならない。それは無になるということではなければならない。対象論理学はいうでもあろう、既に死といい、無というならば、そこに相対するものもないではないか、相対するということもいわれないではないかと。しかし、死ということとは、単なる無ということではない。絶対といえば、いうまでもなく、対を絶したことである。しかし、単に対を絶したものは、何物でもない、単なる無に過ぎない。何物も創造せない神は、無力の神である、神ではない。…そこに絶対そのものの自己矛盾があるのである。…自己の外に自己を否定するもの、自己に対立するものがあるかぎり、自己は絶対ではない。絶対は自己の中に、絶対的自己否定を含むものでなければならない。…真の絶対とは、斯くの如き意味において、絶対矛盾的自己同一的でなければならない。我々が神というものを論理的に表現する時、斯くいうのほかにない。神は絶対の自己否定として、逆対応的に自己自身に対し、自己自身の中に絶対的自己否定を含むものなるが故に、自己自身によってあるものである(※2)、絶対の無なるが故に絶対の有であるのである。絶対の無にして有なるが故に、能わざる所なく、知らざる所ない、全智全能である。故に私は仏あって衆生あり、衆生あって仏ありという、創造者としての神あって創造物としての世界あり、逆に創造物としての世界あって神があると考えるのである(※3)。</p>	<p>(※1)【イザヤ書】 6:2 その上にセラピムが立ち、おのおの六つの翼をもっていた。その二つをもって顔をおおい、二つをもって足をおおい、二つをもって飛びかけり、6:3 互に呼びかわして言った。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満つ」。6:4 その呼ばわっている者の声によって敷居の基が震い動き、神殿の中に煙が満ちた。6:5 その時わたしは言った、「わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから」。6:6 この時セラピムのひとりが火ばしをもって、祭壇の上から取った燃えている炭を手に携え、わたしのところに飛んできて、6:7 わたしの口に触れて言った、「見よ、これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの悪は除かれ、あなたの罪はゆるされた」。</p> <p>(※2)【出エジプト記】 3:13 モーセは神に言った、「わたしがイスラエルの人々のところへ行って、彼らに『あなたがたの先祖の神が、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と言うとき、彼らが『その名はなんというのですか』とわたしに聞かば、なんと答えましょうか」。3:14 神はモーセに言われた、「わたしは、有って有る者」。また言われた、「イスラエルの人々にこう言いなさい、『わたしは有る』というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました」と。</p> <p>(※3)【創世記】 1:1 はじめに神は天と地とを創造された。1:27 神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。</p>
	<p>…極めて背理のようではあるが、真に絶対的な神は一面に悪魔的でなければならない。斯くして、それが真に全智全能ということが出来る。エホバはアブラハムに、その一人子イサクの犠牲を求めた神である(※4)。人格そのものの否定を求めた神である。単に悪に対しこれと戦う神は、たとい、それがどこまでも悪を克服するといっても、相対的な神である。単に超越的に最高善的な神は、抽象的な神たるに過ぎない。絶対の神は自己自身の中に絶対の否定を含む神でなければならない。極悪にまで下り得る神でなければならない。悪逆無道を救う神にして、真に絶対の神であるのである。…絶対のアガベは、絶対の悪人にまで及ばなければならない。神は逆対応的に極悪の人の心にも潜むのである。単に鞫く神は、絶対の神ではない。</p>	<p>(※4)【創世記】 22:2 神は言われた、「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい」。22:3 アブラハムは朝はやく起きて、…その子イサクとを連れ…神が示された所に出かけた。22:10 そしてアブラハムが手を差し伸べ、刃物を執ってその子を殺そうとした時、22:11 主の…22:12 み使が言った、「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」。</p>

概念	西田幾多郎「場所的論理と宗教的世界観」	備考
絶対矛盾的自己同一 逆対応（絶対矛盾の面）	<p>我々の自己と神即ち絶対者との関係は、…何処までも逆対応的である、絶対に逆対応的であるのである。…我々の永遠の生命とは、此処に考えられねばならない。我々の自己が生命を脱して不生不滅の世界に入るというのではない。最初から不生不滅であるのである。即今即永遠であるのである。…我々は自己の永遠の死を知る。そこに自己がある。しかしその時、我々は既に永遠の生に於てあるのである。…信仰は恩寵である。我々の自己の根源に、かかる神の呼声があるのである。私は我々の自己の根底に、何処までも自己を越えて、しかも自己がそこから考えられるものがあるという所以である。そこから生即不生、生死即永遠である。…中世哲学において神を無限球に喩えた人は、周辺なくしていたところが中心になるといった(※5)。…真に絶対的なものは、対を絶したものではない。絶対者の世界はどこまでも矛盾的自己同一的に他ととの逆限定的に、すべてのものが逆対応の世界でなければならない。…ルターも、ローマ書の序言において(※6)、信仰は我々のうちに働き給う神の業なり、ヨハネ伝第一章にあるように我々を更えて新しく神から生れさせ(※7)、古いアダムを殺し、心も精神も念も凡ての力とともに、我々を全く他人となし、更に精霊を伴い来らすと言っている(※8)。禅宗では、見性成仏という(※9)…見といっても、外に対象的に何物かを見るというのではない、また内に内省的に自己自身を見るというでもない。…眼は眼自身を見ることはできない…然らばといて超越的に仏を見るというのではない。そういうものが見られるならば、それは妖怪であろう。見というのは、自己の転換をいうのである。…我々の自己は絶対的一者の自己否定として、何処までも逆対応的にこれに接するのであり、個なれば個なるほど、絶対的一者に対する、即ち神に対することができる。…故に我々の自己の一々が、永遠の過去から永遠の未来にわたる人間の代表者として、神に対するのである。…此処に我々の自己は、周辺なくして、至る所が中心である無限球の無数の中心とも考えることもできる。…アブラハムが朝早くイサクを携えてモリヤの地へ立った時、彼は唯一なる個として、即ち人間の極限として神に対していたのである。…しかも彼は人類の代表者として立ったのである。宗教において自己が自己を脱して神に帰するということは、…人間が人間を脱することであるのである。それは神の創造の事実来接することであるのである。そこに神が自己自身を示現するとともに、我々が啓示に接するのである。信仰とは、主観的信念ではなくして、歴史的世界成立の真理に触れることである。神に背いて知識の樹の果を喰ったアダムは墮罪とは、神の自己否定としての人間の成立を示すものに他ならない(※10)。…人間はその成立において自己矛盾的である。…人間は原罪的である。道徳的には、親の罪が子に伝わるとは、不合理であろう。しかしそこに人間そのものの存在があるのである。原罪を脱することは、人間を脱することである。それは人間からは不可能である。唯、神の愛の啓示としてのキリストの事実を信じることによるのみ救われるという。そこに我々の自己の根源に帰するのである、アダムに死し、キリストに生きるという(※11)。…それは絶対者の呼応に應ずるといふことにほかならない。</p>	<div data-bbox="845 268 1436 470" style="text-align: center;"> </div> <p>(※5)クザーヌス(著)、山田桂三(訳)【学識ある無知について】第1部第13～21章 もし円が大きくなるにつれて円周をなす曲線の湾曲が小さくなるならば…最大円の周は最小限に湾曲していることになり、…最大限にまっすぐだということになる。…してみると、無限な線は…円でもある。…次に、直径を…固定したまま、その周りに…円を回転させるならば、球が生ずる。…無限の線がいまや球でもある…。この円は最大だから、その直径も最大である。しかし、多くの最大のものはいりえないから、この円は、直径がそのまま周であるという意味で単一的である。ところで、無限の直径は無限の中央を持つ。この中央は円の中心にほかならぬ。してみると中心と直径と周は明らかに同一である。…さらに無限の球においては中心と厚みと周は同一であるから、これらすべての終端(目的)であり中央(媒介)である。</p> <p>(※6)ルター(著)、石原謙(訳)【キリスト者の自由・聖書への序言】P76</p> <p>(※7)【ヨハネ伝】 1:10 世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。1:12 しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。1:13 それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。</p> <p>(※8)【ローマの信徒への手紙】 8:1 今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。8:10 もし、キリストがあなたがたの内におられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに生きているのである。8:11 もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださいであろう。</p> <p>(※9)見性成仏 自己本性を徹見して仏になること</p> <p>(※10)【創世記】 2:16 主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。2:17 しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きつと死ぬであろう」。</p> <p>(※11)【コリントの信徒への手紙 I】 15:20 しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。15:21 それは、死がひとりの人によってきたのだから、死人の復活もまた、ひとりの人によってこなければならぬ。15:22 アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。</p>

概念	西田幾多郎「場所的論理と宗教的世界観」	備考
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">絶対矛盾的自己同一</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平常底(自己同一の面)</p>	<p>・我々の行動の一行が終末論的ということは・道は平常底ということである。・我々の自己自身の底に、何物も有するところなく、何処までも無にして、逆対応的に絶対的一者に応ずるのである。我々の自己が何処までも自己自身の底に、個の先端において、自己自身を絶対的一者に応ずるということは、そこに我々の自己がすべてを超越するということである、・この歴史的世界を超越することである、過去未来を超越することである。・そこに我々の自己は絶対自由である。・自己が自己の底に自己を越えるということは、単に自己が無になるということではない。自己が世界の自己表現点となるということである。真の個となることである。真の自己となることである(※12)。真の知識も道徳もかかる立場から出てくるのである。そこから絶対者の自己否定の極限として人間の世界が出て来る。・私の平常底というのは、・我々の人格的自己に必然にして、人格的自己をして人格的自己たらしめる立場をいうのである。即ち真の自由意志の立場をいうのである。・自己転換の自在的立場をいうのである。我々の自己はこの点において世界の始に触れるとともに常に終に触れているのである。逆にまたそこが我々の自己のアルファであると同時に、オメガであるということが出来る(※13)。・故に私は終末論的に平常底というのである。我々の歴史的意識というのは、何時もかかる立場において成立するのである。・故に我々は、その立場において、無限に過去の過去を考え得るとともに、無限に未来の未来までを考え得るのである。単なる抽象的意識的自己の立場から、歴史が考えられるのではない。単なる意識的自己から考えられるものは、単なる自伝に過ぎない。・宗教的立場というのは、唯、右如き歴史的世界の永遠の過去と未来と、即ち人間の始と終との結合の立場、最深にして最浅、最遠にして最近、最大にして最小の立場、即ち私のいわゆる平常底の立場を徹底するにあるのである。</p>	<p>(※12)西田幾多郎【叡智の世界】</p> <p>・道徳的自由意志は・自己撞着である。・道徳的自己があるということは、自己を不完全としてどこまでも理想を求めることであり、良心が鋭くなればなるほど、自己を悪と感ずるのである。かかる矛盾を越えて真に自己の根底を見るには宗教的解脱に入らなければならない、徹底的に自己を否定することによって自己の根底を知るのである。その境地においては、善もなければ悪もない、・自由意志をも脱却し、そこには罪を犯す自己もない。善のイデアというも形なきものの影にすぎないのである。</p> <p>(※13)【ヨハネ黙示録】</p> <p>22:5 夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらぬ。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。22:7 見よ、わたしは、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである」。22:10 またわたしに言った、「この書の預言の言葉を封じてはならない。時が近づいているからである。22:12「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。22:13 わたしはアルファであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めであり、終りである。22:16 わたしイエスは、使をつかわして、諸教会のために、これらのことをあなたがたにあかした。わたしは、ダビデの若枝また子孫であり、輝く明けの明星である」。22:20 これらのことをあかすかたが仰せになる、「しかり、わたしはすぐに来る」。</p>

図:大澤正人(著)田島 董美(イラスト)『西田幾多郎』P139 より引用

概念	西田幾多郎「場所的論理と宗教的世界観」	備考
象徴	<p>・・真の絶対者は悪魔的なものにして自己自身を否定するものでなければならない。そこに宗教的方便の意義がある。・・絶対者は何処までも自己自身を否定することによって、真に人を人たらしめるのである、真に人を救うということができるのである。宗教家の方便とか奇蹟とかいうことも、此の如く絶対者の絶対的自己否定の立場から理解せられるであろう。私は自ら悪魔にも墮して人を救うといわれる。キリスト教においても、受肉ということには、かかる神の自己否定の意義を見出すことができるであろう(※14)。仏教的には、この世界は悲願の世界、方便の世界ということができる。私は種々なる形に現じて、人を救うということができる。</p> <p>・・象徴というも・・それは世界の自己表現としては、歴史的世界形成の力を有ったものでなければならない。宗教家の神の言葉というものは、かかる立場から把握せられなければならない。・・キリスト教では、太始に言葉ありという。而してキリストについて「言葉肉体となりて我らの中に宿り給えり」という(※15)。仏教においても、名号即ち仏であるのである(※16)。右の如き意味において、創造的にして救済的な啓示的言葉、・・絶対者の自己表現として、我々の自己をして真の自己たらしめるもの、理性をして真の理性たらしめるものであるのである。</p> <p>・・宗教心とは、何処までも人間が人間成立の立場を失わないことである。宗教的立場そのものは、何らの固定せる内容を与えるものではない。何となれば、それは立場の立場なるが故である。固定せる内容を有するならばそれは迷信である。故に宗教的教義は、何処までも象徴的でなければならない。而してそれは我々の歴史的生命の直接的な自己表現であるのである。そのかぎり、象徴が宗教的意義を有するのである(※17)。</p>	<p>(※14)【ピリピの信徒への手紙】 2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、2:7 かえって、おのれをむなしくして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。</p> <p>(※15)【ヨハネ伝】 1:1 初めに言があつた。言は神と共にあつた。言は神であつた。 1:2 この言は初めに神と共にあつた。1:14 そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿つた。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であつて、めぐみとまことに満ちていた。</p> <p>(※16)名号 仏・菩薩の名</p> <p>(※17)佐藤康邦他編著【西洋哲学の誕生】P280～関根清三発言 ・・この相対的な世に棲むわれわれは、この世の何らかの相対的な象徴を通してしか、絶対なる神を表象することはできないという点です。・・宗教には無制約性と具体性と両方の側面があります。一方で確かに哲学的には、人格神ではなく、クセノパネスが論じたような「死すべき者と少しも似ていない」超越的な無制約者として、神を探求しなければならないでしょう。しかし他方、宗教は具体的な象徴の豊かさによって、それを指し示すものである。・・哲学的な絶対者についての分析を縷々述べるよりも、例えば神がその独り子を十字架につけてわれわれの罪を贖つたと、擬人神観的で具体的な象徴表現の方が、よりインパクトが強いということもあるのではないか。それを捨て去っては、宗教はいたずらにやせ細るだけではないか・・・</p>

以上

【参考文献】

- 全体を通じて
- ・『新共同訳 聖書』(ジッパー・サムインデックスつき ミニ判黒)、日本聖書協会、2012 年
 - ・『旧新約聖書一文語訳』、日本聖書協会、1996 年
 - ・原 富男(著)『簡易東西哲学思想辞典』、三信図書、1983 年
- 4～8
- ・佐藤康邦, 三嶋輝夫(編著)『西洋哲学の誕生』、放送大学教育振興会、2010 年
 - ・関根清三(著)『ギリシア・ヘブライの倫理思想』、東京大学出版会、2011 年
 - ・関根清三(著)『旧約聖書と哲学 現代の問いの中の一神教』、岩波書店、2008 年
- 9
- ・西田幾多郎(著), 上田閑照(編集)『西田幾多郎哲学論集(3)自覚について 他四篇』、岩波文庫、1989 年
 - ・西田幾多郎(著)『善の研究』、岩波文庫、1979 年
 - ・小坂国継(著)『西田哲学を読む 1「場所的論理と宗教的世界観」』、大東出版社、2008 年
 - ・小坂国継(著)『西田哲学を読む 2「叡智的世界」』、大東出版社、2009 年
 - ・小坂国継(著)『西田哲学の研究 場所の論理の生成と構造』、ミネルヴァ書房、1991 年
 - ・小坂国継(著)『西田幾多郎 その思想と現代』、ミネルヴァ書房、1995 年
 - ・大澤正人(著), 田島 董美(イラスト)『西田幾多郎』、現代書館、2001 年
 - ・クザーヌス(著), 山田桂三(著)『学識ある無知について』、平凡社ライブラリー、1994 年
 - ・八巻和彦(著)『クザーヌスの世界像』、創文社、2001 年
 - ・ルター(著), 石原 謙(訳)『キリスト者の自由・聖書への序言』、岩波文庫、1955 年

【参照した WEB サイト】

- | | |
|--------------------|---|
| Wikisource:聖書 | http://ja.wikisource.org/wiki/%E8%81%96%E6%9B%B8 |
| 日本大百科全書 聖書 | http://www.bibalex.jp/JKL/1113171803.html |
| ウィキペディア フリー百科事典 聖書 | http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%81%96%E6%9B%B8 |